

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和6年1月分）

【製造業】

○製造業は、11月の鉱工業生産指数は前月比0.6%上昇となった。ヒアリングでは、自動車の生産が好調であることや、価格転嫁の効果により、採算が改善しているとの声が聞かれた一方で、中小・零細企業は労務費の上昇分を価格転嫁できないとの声や、産業機械分野では海外需要だけでなく国内需要も減少しており、今後の回復が見通せないとの厳しい声も聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、11月の鉱工業生産指数は、食料品、木材・木製品及びパルプ・紙で上昇した。ヒアリングでは、コロナ禍で低迷していた祭礼やインバウンド需要の回復や不採算部門の見直しにより、売上や利益が改善傾向にあるとの声が聞かれた一方で、消費低迷により業況が厳しいとの声や、価格転嫁が困難なため、商流を変更したとの声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、12月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲9.6%となった。ヒアリングでは、自動車生産が好調なため、増設を行うとの声や、事務合理化や災害発生時のリスクマネジメントとして、社内システムのDX化を検討しているとの声が聞かれた一方で、省エネや脱炭素を目的とした設備投資のほか、一部では増産目的の設備投資もみられるものの、大規模な投資案件は少ないとの声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、12月の販売額は、ドラッグストア及びコンビニで前年同月比で上昇し、全体で同0.6%上昇となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上が好調との声が聞かれた一方で、アパレル店舗は暖冬の影響により低調に推移しているとの声や、飲食店は大人数での宴会が少なく、低調に推移しているとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、12月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲10.8%、▲13.5%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているほか、食材を中心とした原材料やエネルギーコストの高騰が続き、経営を圧迫しているとの声が多く聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、12月の制度融資実績は、11ヶ月連続で増加した。金融機関からは、生産が好調な製造業では、運転資金の需要が非常に旺盛との声や、3月にゼロゼロ融資の据置期間満了を迎える事業者が多いため、今後、借換資金需要が高まるのではないかと聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、12月の有効求人倍率は1.58倍と27ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、人手が不足し、納期が長期化しているとの声や、人材確保や人材流出防止のため、賃上げを行う企業が増えているとの声、高齢化や後継者不足により、取引先の廃業が続いているとの声が聞かれた。

【景気動向】

11月の景気動向指数（一致指数）は前月比0.2ポイント上昇、12月の中小企業の景況感と同6ポイント上昇となった。